

【 第 3 回中標津町総合計画審議会報告 】

日時：令和 7 年 5 月 28 日（水）18：30～20：50

令和 7 年 5 月 29 日（木）18：30～20：50

場所：中標津町役場 3 階 301 号会議室

出席者：令和 7 年 5 月 28 日（水）審議会委員 10 名、事務局 5 名

令和 7 年 5 月 29 日（木）審議会委員 9 名、事務局 5 名

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議 題
- （1）第 7 期中標津町総合計画後期基本計画の分野別の方向性について
- （2）その他
- 4 閉 会

<会議結果報告>

- 1 開会

※開催に先立ち、中標津町全町内会連合会推薦の株田宏委員について、所属団体の役職改選に伴う委員変更の申出により、新たに山本啓治委員に委嘱状を交付。



- 2 会長挨拶

- 3 議題

※中標津町総合計画審議会条例第 6 条第 1 項の規程に基づき、小田会長が進行した。

- （1）第 7 期中標津町総合計画後期基本計画の分野別の方向性について

※政策推進課 伊與部係長より、資料に基づき説明。その後役場の課長職を交えてグループワーク実施。

【グループワーク「5 年後の中標津に向けて『さらにこうしたい』事」】

- ・第 2 回総合計画審議会でも出された意見と、それに対する町の考え方（別紙資料）を踏まえ、5 年後の中標津町の方向性の深掘りを、【生活環境分野】【経済・雇用分野】【健康・福祉・子育て分野】【教育・文化分野】の 4 分野について意見交換（各分野 2 グループに分けて実施）。
⇒別紙資料のとおり意見が出され、その中から各分野で「特に大切にしたい事」を整理。
⇒上記で出された意見については後期基本計画素案へ盛り込むことを検討。



(2) その他

※本間副委員長から総合計画に係る独自の勉強会開催について提案、参加者募集の呼びかけ。

4 閉会

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【生活環境分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
情報発信・共有(町内)	欲しい情報、伝えたい情報が、届く、探せるようなまち	GWの中で、みんなが町の情報について話していた内容を渡部がとりまとめ記載	町の情報発信については、令和4年から公式LINEを運用開始する等、新たな情報発信ツールの整備に取り組んできましたが、町のホームページにおいては、必要な情報を探しやすい内容を目指す必要があると考えています。 また、現在は町民のスマートフォン等の情報端末の所有者も増加していることから、SNSを活用したプッシュ型による情報発信強化等にも取り組んでいく考えです。
防災	災害に強いまち、災害への準備を（千島海溝地震が起きるといわれているので強化してほしい）		防災・減災対策の強化に向けては、町として防災関係機関との連携強化や、各種訓練に取り組む体制強化を図っていく考えです。また、地域住民である地域防災リーダーや防災士等と連携をとりながら、より住民に近いところでの自助・共助の必要性、家庭での日頃からの備えの重要性を訴え等、町民の防災意識を高め、地域としての防災力の向上を図りたいと考えています。
町内会・地域コミュニティ	町内会の加入率を5年後には50%にする	町内会の代わりになる組織を考えることも必要ではないか	町内会は地域の総意を代表する組織として重要な組織であると考えており、これまで町内会加入促進に向けては、役場窓口での案内や補助金による町内会活動支援、町内会会員カードの普及・利用、啓発のぼりの作成・配布等、様々な取り組みを重ねてきたところです。しかし一方で、町内会加入率は減少傾向が続いているのが現状であり、任意加入であることや、町内会加入のメリットを感じにくい事等、現実的には難しい状況となっています。 町内会は任意組織であり町が運営する組織ではないことから、加入率を成果目標として掲げる事はできないところではありますが、後期基本計画においても、全町内会連合会と連携し、粘り強く加入促進に取り組んでいく考えです。
	町内会の加入率が90%になっているまち（人口減少のなかでの町内会の役割は重要になってくと思う）		
	団体が元気なまち（町内会の話でたが、町内会も含めて、町民の団体が元気に活躍できるまちになればいい）		
地域交通	町営バスが便利になると良いかなと思います。（例えば、路線を増やしたり）	現状歩いている高齢者がいる。事前に予約する乗り合いタクシーのようなものがあれば。他にも70歳以上はタクシー半額等、足がない人の支援ができれば。	地域交通（公共交通）については、自家用車の普及により利用者が大きく落ち込んでいる一方で、学生・高齢者にとっては必要なものであり、少子高齢化社会を見据えた持続可能なバス運行体制が必要であると認識しております。現在、より利便性が高く、効率的で持続可能な生活路線を目指して、郡部地区のデマンド化も含め、バス路線やダイヤ見直しに取り組んでおり、令和7年10月から、実証事業等を通して検討を進めていきます。
	町内の移動がしやすい環境（公共交通）	子供、高齢者の移動手段の確保が必要ではないか	

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【生活環境分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
キャンプ場	キャンプ場の整備。		現在町では、緑ヶ丘森林公園キャンプ場を現在のニーズに合わせてオートサイトの新設やトイレを改築する等の大幅リニューアルを進めています。 北海道立ゆめの森公園に隣接するとともに、広い敷地と豊かな自然をあわせ持ち、市街地からも空港からも近い利便性の高いキャンプ場として、リニューアルにより町への観光客増加を期待しています。
都市計画	コンパクトで住みやすいまちに	弟子屈町の人が、釧路ではなく中標津にくるのは、買い物の移動距離が短くなんでもそうからと、弟子屈の知人が言っていたの話から、商業施設がまとまっていることが、住みやすさとの意見	中標津町では、都市計画マスタープランに基づき、コンパクトで機能的・効率的な市街地形成を目指しています。後期基本計画においても引き続き、コンパクトで住みやすいまちづくりを進めていきたいと考えています。
住環境・空き家	賃貸住宅が見つけやすい環境（現状は、家賃が高い、少ない）	家賃が安いまち	中標津町の家賃が高い状況は問題点として指摘される事が多いところですが、これは中標津町の住宅需要が高い結果でもあり、家賃が安いという事は需要がない（人口減少傾向が強い）という事実も踏まえる必要があると考えています。 空き家の流通につきましては、現在も民間事業者により活発に行われていると認識していますので、町としては、市場に出ていない物件の流通・利活用の促進に向けて、空き家施策を進めていきたいと考えています。
	空き家について、家が高くて買えなくなっている。住むところがない時に空き家を活用するのが大事では。空き家を資源として捉える。		
景観	景観がきれいになるとよい。道路とかもガタガタ。	景観への手入れが行き届けば、ヒグマ対策にもつながる。	中標津町では、景観条例や景観計画に基づき、本町の風土に調和した良好な景観を守り、つくり、育てる景観まちづくりを推進しています。 町としては、ソーラーパネル設置事業者に対し町の景観形成基準に基づいた設置を求めているところであり、景観や緑化形成に配慮した設置となるよう努めていく考えです。
	中標津らしい景観を守るの定義とルールがしっかり整備されている町	建築物の街並み（色や形、高さ）の統一化、太陽光パネル問題による景観の保全	
	ソーラーパネルだらけにしてほしくない。	道路沿いに建てられると、せっかくの風景が台無しになる。	

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【経済・雇用分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
若者定住・Uターン	進学も重要ではあるが、学んで、戻ってきてくれる。(戻っても、生活できる、仕事がある)	戻ってこれる環境づくりが重要。	若者が将来的に戻ってくるまちづくりにむけては、高校生の内からまちづくりに関わり、町に愛着を持ち、いずれ帰ってきたいと思ってもらうための取り組みに着手し始めたところであり、後期基本計画においてもその取り組みを展開していく考えです。 また、高校生に限らず、専門学生・若手社会人等も巻き込み、若者自身でまちづくりを考え、若者自身でまちの賑わいを作る(若者向けイベントを実施する)取り組みを進めていく予定でもあります。 この取組により、若者向け施設が不足している当町の課題に対し、若者同士の交流促進を図るとともに、地域の大人達と関わる機会を創出し、中標津町に自分のふるさととして特別な想いをもってもらえるよう町として取り組んでいきます。 同時に、若者や女性が働きたいと思える雇用が足りていない現状もあると認識しており、これも若者・女性がUターンを決断する上で大きなハードルでもあったと考えております。 今年度は、本町出身者が町に戻り町内事業者に就職する環境を整備することを目的に、奨学金返還支援制度を創設しました。現在、若者・女性が望む雇用の創出に向けて研究を進めているところであり、企業誘致や起業促進等を含めて、取り組みを進めていく考えです。
	若い世代からの意見で多いのが遊ぶところがない。つまんない。	人と人をつないで楽しい環境にできれば。(ゲームではなく)	
	②安心と生きがい 10代のリア充を増やす。 遊ぶところがない⇒ゲーム⇒コミュ障⇒自殺、結婚しない、できない		
	若い世代が帰ってくるには子供の頃の経験が大事。特に幼児教育。大人との関わりの中で、かっこ良い大人と出会うのが大事で、大人との出会いの場をどれだけ作れるかが大事。		
	人口減少に関係しているが、5年後の中標津・・・という事は今の10代の子供が、この中標津で生活したいと思える環境	その子達の意見を取り入れるのが大事。	
	若い子達が意見を言う場があるのか。「若者議会」として中高生に1,000万円を渡して自ら考え使っている町もある。まちづくりを自分事としてとらえるのが大事。		
	若い人が住みやすい！と思える町になると保育・教員の資格を取りに行ってる学生が町に戻り就職すると思う。		
	2025年現時点：魅力的な女性の職場が少ない 2030年：若者や女性が働く場所が豊かに		
	10代の子がこの町で育って「楽しかった」と思えたら、戻ろうとする。環境が整ってなかったら、他の町で生活するのはあたり前ですよね。		
	40代独身、出会いの場が増えているといいな。	プライベートで異性とコミュニケーションをとる場がない。	
	文化的なイベント(若者向け)	音楽イベント(SHIRUBE)など	

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【経済・雇用分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
	若者の日常が楽しくなるような文化や施設があるといいな。		
	若者向けの施設がないのに、若者は来ない。高校生が魅力に感じるまちにしたい。	Uターンにもつながる。	
	中標津町で働くイメージや、地域の産業や職場などが伝わるような場所を作って、小中高生と交流し、子供たちが帰ってくるきっかけを作っていくこと		
人材確保	各企業、福祉関係、医療職の人材確保が容易な町になる	働き世代の増加が必要ではないか	近年の人口減少に伴うあらゆる業種での働き手不足については、町としても大きな課題として捉えています。働き世代の増加に向けては現在、若者が高校生のうちから町に愛着を持ってもらう取組や、奨学金返還支援によりUターン促進に積極的に取り組んでおり、また、あわせて外国人材の誘致にも取り組む等中標津町で働く人の増加を図っており、後期基本計画においてもこの取り組みを展開していく考えです。
女性活躍	女性が働ける、働きやすいまち	委員のひとりが、たまたま自分のやりたい仕事が福祉系だったので社協に就職し、中標津町に住んでいるが、そもそも女性が働ける職場がないという話から、GWの中で出てきた内容を渡部が記載	女性が働きたいと思える職場の創出は非常に重要であると認識しています。町としては現在、男女共同参画の取り組みとして、男女の固定的な役割意識の見直しの啓発等、女性が働きやすい環境づくりに努めています。また、特に若年女性が働きたい職種がない事も大きな課題であり、若年女性が地方から都会へ流出する原因でもあります。この点について、現在、若者・女性が望む雇用の創出に向けて研究を進めているところであり、企業誘致や起業促進等を含めて、取り組みを進めていく考えです。
野生動物対策	野犬駆除で子供の通学を安全に（犬猫の保護の話もあるが、農家は本当に切実。自分も野犬の被害にあったこともあるので、子供たちに危害が及ぶ可能性もあり危険）		野生動物による人的被害と農業被害については、町としても近年課題が大きくなってきていると認識しているところです。近年のヒグマ目撃情報の増加に対しては捕獲従事者の育成を図り、人や家畜等の被害が出る前に一定数の個体駆除を目指し、野犬についても檻による捕獲活動や餌やり禁止、ペットの飼い方の周知等により個体を増加させない取組を進めていく考えです。
	熊が出ない。	安心して過ごしたい。熊が怖くて走りに行けない。	
北方領土対策	北方領土に対する理解の醸成、学習の機会続いているといいな。		北方領土問題については、現在のウクライナ情勢により、中標津町、根室市、別海町、標津町、羅臼町の北方領土隣接地域と、北方四島との交流事業ができない状況が続いており、国民・町民の北方領土問題への意識の低下を懸念しています。そのため、北方領土返還要求運動の火を絶やさないよう、国や北海道、関係団体と連携して機運の醸成に努め、北方四島との交流の早期再開、早期返還を目指し取り組んでいく考えです。

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【経済・雇用分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
農業振興	酪農と畑作の最適な組み合わせ(最先端地区)	産官学で考える 酪農を活かした新たな畑作への参入を バランスよく進められないか	酪農業を中心とした農業は中標津町の重要な基幹産業であり、町として農業振興に向けて酪農の大型経営化に対応した農業基盤整備による生産性・収益性の向上や農業所得の向上、担い手確保対策、スマート農業の導入による作業の省力化等、多様でゆとりのある農業経営を推進していく考えです。また、あわせて農産物の付加価値向上や需要拡大も重要であり、酪農業の主な収入源である牛乳・乳製品の消費拡大を目指したいと考えています。 畑作については、てん菜、じゃがいも、大根、そば、ブロッコリー等が、現在当町で生産されていますが、新たな畑作については農家の経営が成り立つ事が前提となる事から、各農家の動きも踏まえた対応が必要であると考えます。
	酪農業が安定する。基幹産業だからこそ。	生乳生産量全国第3位は知られていない？	
産業振興・地元企業応援	2025年現時点:チェーン店の進出・空洞化??(地域企業の売上低下) 2030年:地元の企業を応援する仕組み。	チェーン店がバイパス沿いに進出し中心市街地が空洞化してきているのであれば、地元企業の売上が減らないように応援する仕組みが必要。	中標津町は、周辺市町村の買い物客が集まる町として企業・店舗の進出が続いているところですが、同時に町外資本が大きくなるリスクもあり、地元事業者に対して中小企業支援制度を設けています。 企業誘致についても、町外資本と町内資本のバランスをとる事が必要であり、誘致する企業は地元事業者と相乗効果を生む事ができる業種である必要があると考えています。 今後も、根室北部の経済の中心として、賑わいのある町を目指し、地元企業応援や起業支援も含めて取り組んでいく考えです。
	2025年現時点:産業構造的に建設事業者や酪農事業者が多く、産業の多様性が乏しい。 2030年:地域の酪農業などの基幹産業を活かしつつ、産業・業種の多様性を確保していく。	企業誘致や地元企業の応援等により産業の多様性を広げていく事が重要。個人の新規事業を応援する事も大事。支援があるとチャレンジしやすい。	
	北海道で唯一の店、企業があるまちに(企業誘致することで人が集まるのではないか)		
	若い人が起業できるまちになってほしい		
	昔ながらの喫茶店が残っているといいな。 若い人に魅力がある店があるといいな。		
	まちなかが盛り上がっていてほしい。	商業、飲食店。	
	地域外からの投資が集まるまち だけど、地元の資本がしっかり絡んでいる	町内(管内)の消費の循環が外に出ない 仕組みづくり	
魅力発信	景観と観光がつながるまち	交流人口を増やし、中標津の魅力を感ぜてもらおう	中標津町は情報発信・PRが足りていない点については明確な課題であると捉えております。後期基本計画においては、町の認知度向上や魅力発信に努めていく考えであり、実施に向けて民間事業者と連携した取り組みも想定しております。
	日本で一番有名な町に! (移住者から、いいまちなのに魅力が発信されていないといわれたことがある)	中標津町が知られていないよねという萱岡さんの発言にみんな共感していた。	
	既存のイベントを近隣地域の人々が来たいと思うようなイベントに (もっと外から人を呼ぶようなイベントにして、まちを活性化していければ)		

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【経済・雇用分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
観光振興	観光素材が増えたらいいな。若い人に魅力的な施設や道の駅など。	今は観光スポットが開陽台しかない。開陽台以外で紹介できるところがない。	中標津町は日帰り観光や通過型観光に留まっており、滞在型観光への転換が課題となっています。そのためには観光メニュー・コンテンツの充実も重要である一方、根室管内・釧路管内・オホーツク管内の広域観光の拠点としての視点も重要であり、近隣自治体や観光協会等との連携により後期基本計画で推進する考えです。 また、日本人観光客だけでなくインバウンドの増客を基軸とした観光振興の推進を考えています。
	車中泊の人にもやさしいまちに（車中泊しているひとが増えてきたけど、車中泊がしやすいまちになっていない）	道の駅の話から車中泊の話題になり出てきた意見	
	外国人観光客にも来てもらえるようなコンテンツの創出（これからはインバウンドが増えてくるので外国人をターゲットにしたコンテンツが必要）		
	おもてなしのまちであればいいな。		
道の駅	道の駅の機能について、災害時の避難所もかねて必要な施設だと思う。隣町や観光客のフォロー・後方支援するべき町としての準備が不足しているから。	現状、川の反対側に役場機能がない。災害対応の広域連携の中で、中標津町が後方支援の役割を担う事が重要。	後期基本計画の方向性で記載している「複合型交流施設」については、主に中標津町の強みである拠点性を高める事を目的とし、道の駅の機能・交通・コミュニティ等の機能を備えた施設を想定しており、この中で防災拠点としての機能についても検討を進めていく考えです。 現在の根室北部の商業の中心である中標津町の拠点性をさらに高めるとともに、広域観光の拠点としてのポテンシャルを活かした施設とする事で、町のPRの強化や、交流人口の増加を図り、町の活性化を目指したいと考えています。
	みちの駅を作って知名度UP（骨子にみちの駅の記載ある。中標津にあれば人が集まる）	道の駅を目的に旅行する人もたくさんいる。まちの特産品など買える場所があれば地域のPRにもなるなど話が盛り上がった	
地場産品	ふるさと納税強化。	中標津町が目印になるようなお土産ができればふるさと納税の強化にもつながるのでは。	中標津町の地場産品については、町としても民間事業者の新商品開発支援やふるさと納税を通した販路拡大を推進してきております。 今後も、これまで取り組んだ成果を踏まえながら、町の地場産品のPR活動を展開していく考えです。
	中標津町が目印になるような手土産が欲しい。（乳製品以外）		
	2025年現時点：人口減少は進む。選ばれる地域になるために、地域の魅力を商品化できていない。 2030年：地域の魅力を商品化・パッケージ化して、戦略的に売り込む仕組みを作る。		
	魅力ある特産品をつくる（これからは6次化も農家にとって考えていかなければならないし、そうして特産品ができることで町が有名になっていく）		

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【経済・雇用分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
移住	0円物件があれば移住してくれるのでは。0円物件のサイトを行政が管理できれば。	人気のない物件等、0円で借りられる物件を集めた0円物件のサイトがある。	0円物件サイトは、売れずに放置されている空き家や、処分に困っている空き家の無償譲渡のマッチングサイトと認識していますが、中標津町は民間事業者により空き家の販売が活発であり、マンションもなかなか空きがないと言われる等、住宅の需要が高い町となっています。 また、移住にあたって重要なのは働き先であり、まずは働きたいと思える雇用の創出に取り組む必要があると考えています。
空港利活用	北見(女満別)・中標津・釧路で道東のリーダーシップを	近隣(管内)の市町と連携(リーダーシップ)をとり、更に空港を拠点とした本州都市部とのつながり	中標津空港は道東の空の玄関口として非常に重要な役割を担っており、令和5年10月に北海道エアシステム(HAC)が就航して以降、利用者数も増加しています。 町としては、この優位性を最大限活かす事が重要であると考えており、さらなる需要拡大に向けインバウンド客の誘致等に取り組んでいく考えです。 空輸機能や新規路線就航については、あくまで航空会社の経営によるため町が決定する事はできませんが、東京便の増便や関西方面等への新規路線の開設、利用しやすいダイヤの設定等、航空会社へ地域として要望を行っており、今後も継続していく考えです。
	生産現場と空輸機能の連携で都市部への運搬が容易になっている	例えば、新鮮な食材がその日に都心で調理され食べることができる等 新たなアイデアで、中標津空港の活用促進が必要でポテンシャルはすごく高いと感じる	
	千歳空港に並ぶハブ空港に中標津空港がなる	道東エリアの中心地として、東京便他、各空港へ増便して都市部と便利なまち	
	空港を活用している活動して (中標津空港は近隣唯一の空港なので、もっと活用してまちを盛りあげてほしい)		
多文化共生	外国人との交流(子ども含む)ができる町	外国人も子育てができると住み続けるのではないかな	中標津町の在住外国人の数は、日本語学校開校以降大きく増加しており、日本人町民への理解促進・多文化共生の取組は非常に重要であると考えています。 町としては令和6年度より国際交流員(CIR)が新たに着任し、これまで以上に日本人と外国人の交流イベントを開催しています。 一方、交流イベントに外国人の参加者は多いものの日本人側の参加者が少ない現状です。ご意見のとおり、子どもとの交流事業も必要と認識しており、父兄や学校などの協力による日本人側の国際交流・多文化共生への理解醸成が現在の課題です。
	留学生をもっと町民に紹介して理解してもらう事が大事。今は何か留学生に対してよそよそしい感じがする。	子供のうちに外国人と触れ合う事が大事。	
	外国人との交流が盛んになっているまち (外国人が増えてきてイベントなどでも参加してもらい交流できる機会が増えてほしい)		
	外国人との交流イベントが増えるといいな。	岩谷学生や農家の実習生と町民の交流など。	

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【経済・雇用分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
IT専門学校	2025年現時点:教育レベルが低い。教育事業への投資が少ない。せっかくIT専門学校が開校されたが、地域として応援しないと撤退してしまう。 2030年:IT専門学校を町としていかに連携し、教育事業をまちづくりの根幹に位置づけて教育レベルを上げる。		IT専門学校は根室管内初の高校卒業後の進学先として、地域との関わりや中標津町の若者増加への寄与等、町としても大きな期待をしているところです。 現状では、新設校であり生徒や保護者、高校等に対する認知度が低く、専門学校は生徒確保にやや苦戦しているところですが、町としては外国人留学生の入学など他校にはない魅力や、ターゲットを絞った生徒獲得に向けた取り組みを期待するとともに、引き続き町としても必要な協力を行っていきます。 また、専門学校卒業後の就職先に向けては、町内の専門学校を卒業した学生も対象とする奨学金返還支援制度を今年度創設したところであり、町として専門学生の町内就職を促進していくことを考えています。
	IT専門学校を卒業して就職するためのバックアップが必要。ITと関わらない会社でも良い。		
	IT専門学校は大チャンス。学生をどれだけ楽しめられるか。定着してもらう事が大事。国際的な人材が集まってきている。そこを活かす事が重要。		
	地域に貢献する事で専門学校の利益につながる仕組みを作らないと専門学校は撤退してしまうのではないかな。		

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見 【健康・福祉・子育て分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
子育て支援	子供がやりたいこと(習い事)ができる町	他自治体へ流出を防ぐ事が必要ではないか	子育て支援の充実については、町として学童保育(児童館)の充実や一時預かり・病児保育事業等による子供の預け先の確保や、3歳未満児の保育枠の確保に努め、待機児童が生じないよう保育体制の整備を進めてきました。また、国の子育て世帯への経済的支援制度(児童手当拡充、給付金新設等)の拡充や、町独自施策としては、今年9月より新たな保育料負担軽減として0～2歳児の第1子半減、第2子以降無償化を予定しており、仕事と子育ての両立に向けた体制整備と、子育て世帯が2人目以降の子どもを産みたいと思える環境づくりを目指しているところです。 現状として、令和6年は持ち直したものの町の出生数は減少傾向であり、背景としては結婚する若者自体の減少や、女性の働きたい職場不足による若年女性の流出等も要因であることから、町全体として連携した取り組みが今後必要であると考えております。 同時に、人手不足による保育士不足も大きな課題であることから、奨学金返還支援や今年度新たに保育士人材バンクにも取り組み、子育て世帯が安心して子供を預けられる体制づくりを進める考えです。
	送迎付きの放課後児童クラブ(町内に3つしかない……)	共働きの子供が自分で通うには難しいと実感している (町内会が先進事例で行えば加入率増加に繋がる)	
	送迎付きの児童スポーツクラブ	共働きの子供が自分で通うには難しいと実感している (町内会が先進事例で行えば加入率増加に繋がる)	
	結婚して住みたいと思える町づくり	住環境、子育て環境を充実することで、近隣自治体へ流出を防げるのではないか	
	安心した生活、子育て支援として「給食無償化」今後生き残る町としては最低限としてやるべき子育て支援かと。	安心して子育てするために必要。100食無償化された時は保護者はすごく感謝していたが、無償化がなくなると残念がっていた。	
	子供を産みたいと思える町づくり(子育てに必要なお金など)	近隣の子育てに手厚い自治体へ流出を防ぐ必要があるのではないか	
	こどもの医療費は高校生まで免除 (このまちに住み続けるためには必要だと思う)		
	母子家庭向けシェアハウスができるといいな (経済的な部分もふくめ、子供が暮らしやすいまちになってほしい)	母子家庭に限らず、母親、子供が安心できるような体制を強化してほしいとのこと。	
	子育て支援の拡充。親ひとりひとりが恩恵を感じるような。		
	子育てしやすい環境。(保育所)	西町の方の児童館がなくなった。施設の整備や子どもの医療費・給食費無償化など。	

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見 【健康・福祉・子育て分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
高齢者福祉	住民同士の交流。世代を超えた交流、助け合い。	介護や除雪などご近所づきあい。サロンのゆるい感じで交流できる機会。	少子高齢化の進展により、中標津町でも今後高齢者の増加が見込まれており、それに伴い様々な課題を抱えた高齢者も増える事が予想されます。 町としては、高齢者が住み慣れた自宅や地域で安心して暮らし続けられるよう、民生委員・児童委員や消防署、警察署、民間事業者等と連携した見守りサービスを行う等、支援を必要とする高齢者を地域社会全体で支える仕組みづくりを進める考えです。 また、高齢者が生きがいを感じて生活できるよう、就労対策や老人クラブ・高齢者サロンの活性化等も、継続して取り組んでいく考えです。
	福祉人材が増えたらいいな。	人は増えているけど、施設も増えている。	
	福祉の充実があると待つ事なく施設に入れると思います。	現状は待機が生じてしまっている。	
	情報・場所があっても、高齢者につながらない・届かないのであれば、マッチングする仕組み、プラットフォーム等があれば。		
	福祉はこの5年で一気に進んだ！頑張ったなー		
生活保護	生活保護等を不正にもらっている人がいる。本当に困っている人にしっかり届くようにしてほしい。		生活保護については北海道において審査・支給決定を行っているところですが、町として不正受給の情報があつた場合には北海道へ適切に情報提供をしております。今後も、支援が必要な方に支援が届くよう北海道と連携し必要な対応に努めていく考えです。
介護サービス	介護サービスの需要と供給のバランスが保てるように (介護人材の人手不足。自分の仕事柄解決してほしい)		介護サービスの供給量の確保に向けては、現在の働き手不足が深刻な課題と捉えており、町として今年度から介護事業所への人材確保・育成支援を拡充し、介護従事者の資格取得支援や、外国人材の雇用支援等に取り組んでいます。 また、少子高齢化が進む中で、元気な高齢者を増やす事も重要な取り組みであり、今後も介護予防事業を展開していく考えです。
	高齢者の介護予防の充実。元気を長く保てるように		
自殺対策	自殺する前に悩みを相談できる場を作り、自殺者が減少できるように		中標津町は全国と比較し自殺率が高く、特に若年層の仕事に起因した自殺が多い状況です。町としては、この状況を改善するため、自殺対策を考える人材育成や関係機関と連携した自殺予防対策を図り、自殺率の減少を目指したいと考えています。
	自殺対策。外部評価委員会でも話に出た。減って自殺者が0になればいいな。		

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【健康・福祉・子育て分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
町立病院	健康づくりについて、町立病院に色々な先生がいて欲しい。	現状出張医の先生ばかり。高齢者も行きやすい病院になって欲しい。また病院に限らず悩みを相談できる場所・会話できる場所があれば。	町立中標津病院の医師確保については、全国的に医師が都市部に集中し、地方で医師が少ない傾向があり、根室地域ではその傾向が特に顕著になっています。そのような状況から地方病院で診療機能を維持するためには出張医師に頼らざるを得ない状況ではありますが、医師・看護師等の確保は町立病院として最重要課題でもあるため、今後も医師確保対策を進めていく考えです。

総合計画審議会 グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」意見【教育・文化分野】

分類	意 見		町の考え方
	内 容	補 足	
学校教育	GIGA学校のネット回線が強くなっていたらいいな。		国の施策であるGIGAスクール構想のもと、短期間での校内ネットワークの整備が求められる中、十分なネットワーク環境の評価を行えなかったことにより、各学校での通信速度の遅延（適切な帯域が確保されていない）等が、全国的に問題となっています。 町としては、各学校での回線環境改善に向けて今年度から対策に着手しているところです。
文化振興	郷土館の建て替えが前に進んでほしい。6期からの願い。	郷土館がいつ開いているかわからない。入りたい子どもたちもいる。魅力的な施設になってほしいな。	町では現在、文化財の保存・活用に向けて老朽化の著しい郷土館のあり方を検討しているところであり、その中でまずは郷土資料収蔵庫の整備に優先して着手しています。また、文化遺産を活かして、地域振興や観光振興を見据えたまちづくりを推進していく考えです。 あわせて、町民が音楽・芸術に触れ交流できるよう、総合文化会館を拠点にコンサートや各種講演会の開催を積極的に行っており、今後も継続していきたいと考えています。
	本物の文化（音楽・絵画）に触れる機会が増えてほしいな。		
	文化人が増えてほしいな。		
	シニア世代が気軽に参加できるイベント、サークルがあるといいな。 自分がシニアになった時、同世代で集まれるような受け皿が欲しい。	文化人が減ってきている。特に若い人。 スポーツは手軽にできるが、文化サークルは少ない。	
スポーツ振興	こどもたちのスポーツ活動へ助成して（スポーツをしている子供たちを支援していくことでもしかしたら大谷のような子供も将来でてくるかも。別海町でプロ野球チームもできたのもっと盛り上げてほしい）		子供達のスポーツ活動への助成については、現在、児童生徒が全道・全国のスーパースポーツ文化大会に遠征する際に係る旅費等の助成を行っており、これにより子供達の活躍の機会を後押ししています。 また、スポーツイベントについては、令和5年度から「開陽台330° マラソン」の後継事業として「なかしべつチャレンジマラソン」を新しく始めたところであり、まずはイベントの魅力化や参加者数の増加等を図っていく必要があると考えています。
	スポーツイベントを中標津で開催してほしい。町の顔になるようなイベント。	ウォーキング大会を開催し、特産品（牛乳など）を配るとか。町外の人もあるのでは？ 別海などはアキアジ？	

第7期中標津町総合計画【後期基本計画】 グループワークの流れについて

第3期中標津町総合計画審議会

令和7年5月28日（水）・29日（木）

中標津町 総務部 政策推進課 企画調整係

【後期基本計画】グループワークの流れについて

総合計画について【前回の振り返り】

総合計画は、まちづくりの総合的な計画として最も上位に位置づけられるもの。

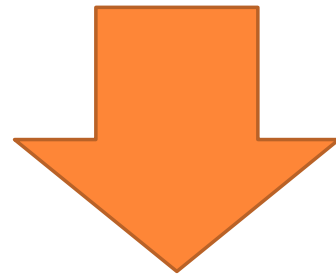
第7期中標津町総合計画 前期基本計画
(令和3年度～令和7年度)

令和7年度中
に策定

第7期中標津町総合計画 **後期**基本計画
(令和8年度～令和12年度)

骨子案とは【前回の振り返り】

骨子案とは、**全体の骨組みとなる大まかな案**のこと。計画や提案などの物事において要点となる事柄を指す。



『**今後5年間のまちづくりの大まかな方向性**』
を決めていく。

【後期基本計画】グループワークの流れについて

空とみどりが人をつないでいくまち

中標津

～住みたいまち 住み続けたいまち～

今日の位置づけ

第1回
(12月)

- ・ 委嘱、諮問
- ・ 後期基本計画策定の流れの説明

第2回
(前回)

- ・ 後期基本計画骨子案の説明
- ・ グループワーク「5年後の中標津の『こうなったら良いな』」

第3回
(今回)

- ・ 後期基本計画骨子案の意見交換（役場課長同席）
- ・ グループワーク「5年後の中標津に向けて『さらにこうしたい』事」

第4回
(7月)

- ・ 後期基本計画素案の説明、意見交換

第5回
(9月)

- ・ 後期基本計画修正案の意見交換

大まかな方向性
(骨子)
の意見交換

計画書の内容
の意見交換

【後期基本計画】グループワークの流れについて

空とみどりが人をつないでいくまち

中標津

～住みたいまち 住み続けたいまち～

今日の位置づけ

パブリックコメント
(1ヶ月間)

第6回
(11月)

・後期基本計画の最終調整、答申

グループワークの流れ

事前を送付した「審議会意見」と「町の考え方」を見ながら

- 1 「5年後の中標津に向けて『さらにこうしたい』事」を付箋に書いて模造紙に貼っていく。
- 2 上記の中から「特に大切にしたい事」を3つ程度挙げる。

⇒この流れを2回行います。（各分野1回ずつ）

グループワークの流れ

⇒模造紙にまとめた意見は後日役場内で協議し、
後期基本計画素案へ盛り込むことを検討。

※必ずしも意見の全てが反映されるわけではなく、
意見毎に役場内で協議します。

グループワークの流れ

グループワークの時間は**各40分**です。進め方は下記のとおりです。

- (1) 最初に簡単な自己紹介をしてください。
- (2) 事前に考えてきていただいた「**5年後の中標津に向けて『さらにこうしたい』事**」を付箋に書いて下さい。【10分】

グループワークの流れ

- (3) 意見交換を行います。付箋に書いた内容を発言しグループ内で共有いただいた後、書記に付箋を渡してください。
- (4) 付箋の中から、グループ内での「特に大切にしたい事」を話し合い、**3つ程度**決めて付箋を模造紙の右枠に移動させてください。

【(3)と(4)で30分程度】

【後期基本計画】グループワークの流れについて

グループワークの流れ

(5) グループ毎に発表する方を決め、グループの「特に大切にしたい事」を発表してください。【10分】



審議会委員の方にもう一方のグループ（もう一方の分野）に移動していただき、(1)～(5)の流れをもう一度実施します。

【後期基本計画】グループワークの流れについて

グループワークの流れ

【進行役】

小田会長、本間副会長

【書記】

伊與部係長、本間主査

※書記は付箋に必要なに応じて補足事項を書き加え、
模造紙に貼り付けます。

グループワークの流れ

【課長職について】

役場の課長職は意見交換をサポートする立場で参加しています。わからないことがあれば質問等をして下さい。

グループワークのルール

- ①参加・・・積極的、主体的に参加する。
- ②尊重・・・お互いを尊重し、傾聴する。（批判しない）
- ③守秘・・・個人的な情報は会議の外に持ち出さない。
- ④時間・・・時間を守る。（一人で話しすぎない）

グループワークの流れ

事前を送付した「審議会意見」と「町の考え方」を見ながら

- 1 「5年後の中標津に向けて『さらにこうしたい』事」を付箋に書いて模造紙に貼っていく。
- 2 上記の中から「特に大切にしたい事」を3つ程度挙げる。

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【生活環境分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
1	Aグループ	情報発信・共有(町内)	議会中継アーカイブ化(未編集)		・議会に限らず、議論や政策のプロセスを公開していく仕組みを作っていく。興味関心を持ってもらう、届けるための工夫が必要。(若者向けの動画発信など) ・道東の広域的な地域をつなぐハブとして文化遺産・歴史等の地域資源を活かした施策が必要。(格子状防風林を世界遺産にしていこうな視点) ・地域の防災意識を高める事と地域コミュニティの強化は密接につながっている。双方が連携した取組が必要。
2			2025年:地域づくりの運動の発信が弱い。 2030年:今回のような会議をSNSや動画などを通じて地域に発信する仕組みを作る。		
3		情報発信(町外)	情報発信。全国レベルのスポーツや学会・ゲームできるよと誘致できる環境づくり。合宿で大きな人数呼べる環境。プロ野球ができる野球場。または高校野球ができる球場。		
4		防災	災害に強い町になってほしい。避難場情報。		
5			災害対策の発信。点検、備え、避難所。	町民の危機感がない。	
6			2025年:(町民の)防災意識が低い。(町内会加入率もそれを反映している) 2030年:「防災に強い中標津町」というビジョンを打ち出すべき。	アピールしていくことが必要。	
7		広域連携	2025年:広域的な自治体同士のつながりが弱い。 2030年:町や市を超えて横のつながりを深める都市計画。地域計画・ビジョンを構想すべき。		
8		地域交通	2025年:地域交通のライドシェア・ディマンドがまだまだ。 2030年:高齢者も住みやすく。		
9			共助コミュニティ。 ・二次交通 ・すき間手伝い	ライドシェアなどの有償ボランティアのマッチングの仕組みを作る。	
10		町内会・地域コミュニティ	地域コミュニティ。へき地イベント(祭り)が元気になれる。出身者が町内会加入。		
11		自然環境	環境基準の広域設定。	標津・羅臼への河川のへの農業の影響など。	
12		道路環境	町中を歩いていると横断歩道が少ないと思うので整備されてほしい。	高校の前に特にあってほしい。	
13		キャンプ場	キャンプ場。中標津町が道東の観光の拠点になる。	車中泊ができるところがない。	
14			2025年:良い景観はあるが、それがブランドとして定着していない。 2030年:中標津モデルや自然のブランディングを進める必要がある。	キャンプ場をハブにしてはどうか。	

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【生活環境分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
15		景観	格子状防風林を世界遺産に。	ブランディングが重要。	
16			景観の定義のアップデート。景観×環境の基準設定。		
17		都市計画	コンパクトシティとしての都市計画。	お店が行きやすいところに出店してもらえるまちづくりが大事。	
18		情報発信・共有(町内)	中標津町の良さをホームページで発信。	「ぎし君結婚おめでとう」等の町の良い話題等をホームページで発信する。	
19			情報発信使える人だけ、使えない人…。ツールの設定のあり方。		
20			(情報発信の)ツールをどこでやめるか？(複数・すたれる)	情報発信ツールはいずれ廃れるもの。より多くの人に伝わる情報発信方法を。	
21			LINEいいね！もっと活用できるようになったらいいな。	別海のLINEはメニューを選べて欲しい情報を選択できる。	
22			役場窓口(だけじゃないけど)でほしい情報は人それぞれなので、総合窓口みたいなものがあると良いな。(情報発信の強化の次のステップ)	受け取りやすい情報発信の仕方が重要。	
23		国勢調査	国勢調査の活用例を公開しますか！	調査に協力したいと思ってもらえるのではないかな。	
24		防災	地域防災リーダー養成から一段階上へ活動できる人材育成をしたい。		
25			どう地域に防災リーダーが入っていくか、学んでいくか。		
26			(防災リーダーは)町内会に1人以上いたらいいね。		
27			(防災リーダー制度を)風化させない事		
28		協働	協働を一步前へ。		

・防災リーダー養成をしたが今後は活動できるリーダーの育成が必要。どう防災リーダーが地域に入っていくかが課題で、リーダーが学んでいく必要がある。

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【生活環境分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
29	Bグループ	地域交通	免許の返納が出来る町になっていれば。新しい交通体系。	5年後は団塊の世代が80歳になるので怖さがある。交通体系を考える必要がある。	・町内会加入率については、担当部署だけでなく横断的に対策していく事が必要。 ・情報発信はLINEがもっと活用できれば良いが予算も限られているので、今使える機能で工夫して。情報発信手段(ツール)はいずれ廃れていくので、より多くの人に伝わる方法が必要。
30			買い物有償ボランティアは厚真町に事例があるよ。		
31		町内会・地域コミュニティ	町内会加入率について、5年後に増えていればいいと思うが、根本的な解決方法を考える事が必要。真剣に考える5年間であれば。	町内会のあり方自体を考える必要があるのでは。会長がいらない(会長代行)の町内会も出てきている。若者が町内会に入らない以前に高齢者がやめていく(会費を払えない等)、入るメリット、極論で言えばごみの戸別収集をやめてステーション方式にするくらいしないと増えない。	
32			子育て世代や若者が必要性を感じる町内会。	どう工夫したらよいか考える必要がある。複数の町内会を統合して大きい単位にするのはどうか。コミュニティが崩壊する一歩手前まで来ている。	
33			町内会に入るメリットを作る。	昔はお葬式を町内会で手伝っていたが、今はそのメリットがない。	
34			コミュニティ作りの自由化と応援。	コミュニティを作りたいと思った人を応援(金銭的支援等)すれば若者も参加しやすいのではないかな。住んでいる区分けではなく町内会以外のコミュニティも重要。	
35			町内会については横断的に取り組む必要がある。		
36		道路環境	草刈り。市街地住民は開陽台までが…。石とんだ車、家にぶつかった。		
37			町中の道路の路面の凹凸が多すぎるような気がする。		
38			道路の穴を町民が埋めたりできるようになったりできないのかな？		
39			歩道や道路の整備。	丸山小学校前のレンガの歩道がガタガタ。木が出ていたり電灯が切れていたり何とかしたい。白線がないと自動運転ができない。	
40		景観	文化的景観。一度取り組んでいて、文化財も計画できたのでまた進めたい。		

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【経済・雇用分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
1	Aグループ	若者定住・Uターン	移住のための支援	お金、仕事、住むところ	・若者が戻ってくるまちづくり。行政はきっかけであり、一番大切なのは「本人の思い」。それには親の声掛けをはじめ、町民みんなの行動が大切。総合計画のみんなの行動にも入れられるのではないだろうか 人口減少は若い人がいないと対応できないので ・居住環境(アパートがない、ホテルがないなど)に係る様々な課題の解決がされているとよい。生活分野と経済分野の隙間、そこが課題。
2			奨学金を利用した人が地元に戻ってくる。若者の雇用が進むと思う	しかし、奨学金は大手もやっているからそっちにとられてしまう。親が「帰ってこい」と言ってくれれば・・・	
3			若者発の取り組み(イベント、コミュニティ)、それを応援(お金、人、もの)する仕組みができていいな	自発的な取り組みの応援。若者の意見を取り入れる仕組み	
4		人材確保	人材の流れが見えやすくなるとよい。求人している企業と働きたい人。現状はハローワークしかない	ハローワーク以外の求人の活用、仕組みづくり	
5		北方領土対策	北方領土に関して。Nプロジェクトが中学生にも広がるといいな		
6		農業振興	農業と他の分野を組み合わせで発展できるといい。		
7			親から「酪農やるな」と刷り込まれていた。離農につながる		
8		地域おこし協力隊	地域おこし協力隊の活動がもっと多分野に広がっているといいな	現状、あまり協力隊の活動が見えてこない	
9		ふるさと納税	ふるさと納税がもっと増えていたらいいな		
10		空港利活用	丘珠便とバスの接続ができていたらいいな	予算的に厳しいものがある	
11		多文化共生	外国人も住みやすいまちーみんなが住みやすい そんなまちにしたい	町内バス、子どもや留学生がもっとわかりやすく使えるようになってほしい	
12		産業振興・地元企業応援	明治や雪印に付随するもの(企業の移転とか)があればいいな		
13			ホテルが不足が解消されているといいな	泊まれるホテルがなく修学旅行を誘致できない、観光客が宿なくて困っている	
14			マンションも不足しているので解消されているとよい	人口は減っているが世帯数は減らない。町内に住んでいても、実家を出て暮らす人も多いのでは	

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【経済・雇用分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
15	Bグループ	若者定住・Uターン (起業支援)	学生が戻ってきたいと思える街にしたい。	大卒者が起業できる環境の構築など	・起業、副業、チャレンジを応援する仕組み。しかし、ただ補助金を出すような仕組みだと、変な事業が出てくる可能性もあるので、釧路のKCボードのような工夫が必要 ・地場製品のPRとして、農業高校とIT専門学校を活用したブランディングや見せ方の工夫。また、農業、産業、文化遺産含めて地域の魅力を発信することで、中標津町の知名度の向上 ・IT専門学校と、他の学校や地域企業との連携強化を図る。交流機会が増えることで、お互いの理解促進が促され、IT専門学校の学生への出口戦略にもつなげていければ
16			若者にコンテスト形式でピーチイベント。優勝したら助成金		
17			子どもを預けられる仕組みづくり(ベビーシッター、アフタースクールなど)		
18			若者の魅力あるまちづくり(子育て環境、働く環境)		
19			起業を応援する仕組み。	釧路のKCボードのような取り組み 起業家が出資者を考えている人の前でプレゼンを行い、よい取り組みには出資するというもの。(令和の虎のような)	
20		人材確保	人材の確保。企業・医療の人員体制。宣伝のプロやメディア対応するプロとの連携。		
21		女性活躍	女性の活躍。男性がしている仕事でも女性ができる仕事もあるので、企業がもっとアピールしてほしい。	現場の仕事とかでも、女性でも働けるという情報発信	
22		農業振興	農業ヘルパーの充実。人員確保、女性でも働ける。	子どもを預けられる施設もあるので、そういった働きやすい環境のアピール	
23			農業のまちとしての発展	農家への支援、新規参入への支援	
24		観光振興	文化的イベントの充実。音楽イベントや産業祭、外国人も参加するイベント		
25			なかしべつ観光協会が迷走しているので、観光を民間で起業しやすくなるとよい		
26			観光の拠点として機能しているとよい。キャンプ場、空港、ホテル		
27		地場産品	ソフトクリームの町といった○○の町といった地場産品を活用したブランド化。庭先などで販売できるノウハウの提供		
28			地場産品のPR。お土産や新たな特産品。	なかしべつといえバ！ というものがあれば・・・	

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【経済・雇用分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
29		多文化共生	農高生が作る商品はすごく人気。もっと活用できればよいと思う		
30			外国人関係トラブルの見えるか。	このような問題があったけど、このように解決したよといったような情報発信	
31		IT専門学校	若者、学生、外の人が巻き起こすエネルギーがどんどん出てくればよい	岩谷学園が来たことの意味合いが共有されていない	
32			岩谷学園の入口出口戦略を含めて応援	IT専門学校と地域企業とのコラボが少ない	
33			北見工大、釧路高専、IT専門学校のホットラインの形成	連携してできることがあれば盛り上がるのでは	

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【健康・福祉・子育て分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
1	Aグループ	合葬墓	合葬墓できたが、より素敵になってほしい。入りたい人気の場所に。		・福祉は「ふつうの暮らしの幸せ」という意味がある。それができるように。 ・介護人材の確保が大切。 ・子育て医療費の支援が必要。 ・もう既にいろんな取り組みがされているがそれでも追いつかない現実がある。各分野が縦割りになるのではなくて幅広く横断的な連携が必要。子供の為に時間を取ろうと思ったら仕事をフルタイムで働けなくなり働き手不足につながる、親の介護をしようと思って仕事を辞めたら生活が苦しくなる等、色んな所につながっている。基本計画に入っている「横断的な連携」は改めて重要。
2		地域福祉	福祉課題の複雑化に対応するための関係機関連携強化。		
3			前期基本計画のP29に「福祉教育」の記載があるが、メンタルヘルス授業小中高に導入させてほしい。景観学習のように。		
4			地域共生社会。すき間を埋める。取りこぼし。		
5		介護サービス	介護はこれからさらに必要とされるが中標津の現状を私は知らないので詳しく知りたい。昔介護したが今とは違うはず。	介護の現状を周知する事も必要ではないか。	
6			福祉・介護担当は大変そう。認知症サポーターが活動していく仕組みづくりができればいいな。		
7			介護施設等待機時間を短く。	必要な人が必要な時に支援を受けられるように。	
8			介護人材増やすためにできることは？		
9			介護従事者が増えるような取り組み。		
10		子育て支援	子どもの医療費・給食費は「無償化」をあたりまえとし、家計でういたお金を子供の習い事に使う。他町にできて中標津ができないのは納得できない。	子どもたちが過ごしやすい環境が必要。	
11			習い事は子供が少ないので、むしろ他自治体と協力できないだろうか、チームの人数が足りなかったり合同チームが増えている。		
12			子育て支援は充実してきている。人の心を支える近所の町民はそばにいないのかわからない。		
13		自殺対策	自殺対策はとてもむずかしく、相談したくても出来ない場合が多いので、察知する必要があるが、誰かが気付かないと手遅れになる。人に関心を持ってもらえるようにセミナーを継続。	色んなジャンルで接点を作る事が重要。	
14			自殺対策はありがたい。		

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【健康・福祉・子育て分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
15		町立病院	町立病院について、道東は医師に人気がなく来たがらないと聞いたが本当ですか？現状に問題はあったりしますか？		
16		多文化共生	専門学校・日本語学校・外国人と子供・若者・高齢者をつなぐ活動が必要。接点を作れる人が増えると接点が増える。		
17		町民との対話	子どもの声を聞く。対話はスキルがあればできる。		
18			町の人の意見を聞く場、町民の声を拾える場がいっぱいある事が重要。		
19		高齢者福祉	高齢者の働く場を作る。まだまだ働ける。	高齢者は70歳でもまだまだ働ける。人手不足対策としても有効では。	
20			2025年：居場所が少ない(特に引退世代) 2030年：居場所を増やす(図書館等)		
21			高齢化に伴い公共交通機関の充実。	バス路線の公表、バスに乗る習慣を作る事が必要。	
22			福祉タクシー等、高齢者の買い物支援。		
23		共助意識の醸成	共助の意識を高める取組。	「町がやります」だけでなく共助が育つ働きかけが必要。福祉は受けるだけでなく共助が大事。お互いに助け合う意識がないとギスギスしてしまう。	
24			子育て支援に手厚い(医療、保育)	預ける場所や時間等、安心出来る事が必要。	
25			(子育て世帯への)支援金またはそれに準ずるサポート		
26			給食無償化		
27			子どもの医療費を無償化	切実な声として聞いている	
28			0～18歳までの医療費無償化		

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【健康・福祉・子育て分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
29	Bグループ	子育て支援	公立のこども園の設置、預かりをしっかりと。	※話し合いの中で既に町立保育園がある事を確認。	・健康寿命を延ばす取組を推進する、それによって高齢者の居場所・働く場所を充実させる。互いに助け合う共助の精神も重要。 ・交通アクセスの充実や福祉タクシー等で高齢者等の買い物支援につなげる。 ・子育て支援はハード、お金、ソフトが重要。子育て支援に手厚い町に。給食無償化や医療費無償化、地域で学ぶ機会の創出、町外出身者（転勤族）等へのお母さんの孤立防止等の幅広い対策が必要。 ・自殺対策も重要。（不登校支援にも関わる。）
30			子どもが地域で学ぶ場・機会	自然でも体験でももう少し場があれば。今は少ない。	
31			子育てについて、町外出身者の子育て支援のサークル等の充実	明治工場の新設等により転勤者の母親が増えると思う。	
32			2025年：子育て支援はお母さんの支援だが・・・。 2030年：お母さんコミュニティ	みらいの子育てサークル等もあるが、必要な人に必要な時に情報が届いていないのではないかと？情報を受け取ったタイミングでは必要ないと思っていたが、後から必要になって調べた時に情報が出てくるようになれば。	
33			2025年：共働き増えてきているが・・・ 2030年：共働きにも優しい街とは？		
34			2025年：お母さんが孤立 2030年：子供を見てくれる場所を支援		
35			働く親の不安解消	アンケート等では不安に感じる親が多い。転勤族には頼れる実家がそばにない。	
36		健康増進・介護支援	健康に対する意識の高い関心のある町民を育てる。		
37			健康寿命を延ばす取り組み。		
38			介護支援、高齢化より健康維持への活動。		
39		自殺対策	5年後には自殺者が減っているのが良い。		
40			2025年：自殺者が多い 2030年：孤立を防ぎ多くの依存先を増やす		
41			保健センターが予防医療を担っているが、病院でも積極的にしてほしい。		

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【健康・福祉・子育て分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
42		町立病院	出張医がもう少し長い期間いてくれないかな。	顔も名前も覚えないうちにいなくなってしまう。	
43			2025年：医師人材不足 2030年：地域からたくさんできるように	医師を目指して出ていった人材が戻ってくる循環を作りたい。	

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【教育・文化分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
1		学校教育	小学校の総合的な学習で情報領域が新設されるように、情報に関連する教育の推進	ネットリテラシーやDX関係。ネット社会は今後ますます発展する。情報過多の時代、必要な情報を自ら選択できるように	
2			情報化の推進はよいことだが、人間関係の希薄化が懸念される。		
3			授業カリキュラムの統一。景観、福祉、防災など「まち」に関するもの		
4			先生が地域の魅力を知っているようになってほしい		
5			保護者の学校に対する認識を変えていきたい	学校への要望が自分の子どもの個人に対する要望になっている	
6			地域で子どもを育てる機運を醸成したい	PTAが解散等がある。学校は地域に支えてもらいたい。	
7			子どもが町(人)とつながる仕組みがあるとよい(活動や場)		
8			聞き書き、キャリア教育の充実		
9			シニア世代が先生となって、昔の遊びや文化など様々なことを教えてくれるような交流機会があればいいな	児童館のたがやし隊のような	
10			今日やっているサークル情報が得られる仕組みがあるとよい。暇なときに気軽に参加できるような		
11			部活動の在り方が整理されているといい。	R7は協議会立ち上げる。できることからはじめている。	
12	Aグループ		中標津町の様々な文化の発信		・学校規模の検討をするための調査研究の推進と、町民との対話の機会を設けてほしい。町民の話を聞いて、みんなで決めていきたい。
13			外国の方との交流機会が増えているといいな。多文化共生の推進。		
14			サークル活動などに支援があるといいな		

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【教育・文化分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
15		スポーツ・文化振興	お金はかかると思うが、スポーツ、文化様々なイベントを多くして、活気のある中標津にしてほしい		
16			郷土館や文化会館、スポーツ施設までそろっているのはすごいことだと思う。		
17			民間の文化交流がもっと活発になればいいな(ushiyado みたいな)		
18			文化的景観の文言、取り組みを入れる		
19		地域の人材育成	社会教育の面で、協働人材を育成してほしい。そして全庁、全町へ広げていく核になればいいな		
20			自治の担い手育成補助金は充実した。報告会やサポート体制を充実させる		
21		生涯学習・家庭教育	家庭教育への入り込みにくさ。家庭も困っていると思うので、親が安心して話せる場づくりを。		
22			生涯学習講座なんかあればいいな		
23		その他	役場庁舎の建て替え検討		
24		GIGAスクール・地域DX	デジタルを活用した町になるといい	ネット回線の整備は重要。子どもだけではなく、大人へのネットリテラシーの啓蒙とともに。高齢者を情報弱者とさせない大人への教育活動。シニア世代にタブレット配布とか。	
25			インターネットが快適に使用できる環境へ		
26			小～大までデジタル教育が弱いので、一貫した情報教育が必要(ITプログラミング、ネットリテラシーなど)		
27			岩谷学園の協力をいただきたい。ITに強い児童生徒の育成		
28			金融教育を必須化に。特に資産運用教育の強化		

審議会グループワーク「5年後の中標津の『さらにこうしたい事』」意見【教育・文化分野】

No.	グループ	分野	意 見		特に大切にしたいこと
			内 容	補 足	
29	Bグループ	学校教育	町の文化、歴史教育に力をいれ、まちの魅力を知ること、将来町に残ってもらえるように。	Uターンにもつながる	・町全体、全世代でITに強くなっていければよい。いわばデジタルシティ(デジタルタウン)というようなことを打ち出す。 ・郷土館を中心に文化、歴史を発信して交流できるようになればよい ・部活動の地域展開における様々な課題(合宿、お金、保険等)が整備されていてほしい。 ・共助のコミュニティがあり、おもしろいのあるまちになってほしい。まちのことや学校のことなどを自分事としてとらえることができるようなまちにしたい。
30			大学等との連携を推進し、教育分野全体の底上げ		
31			部活動の地域展開に関する、様々な課題が整備されていてほしい。(お金、保険、ボランティアなど)		
32			多様な人材を教育現場に入れていければいいな		
33			学校に関する様々なボランティアがあるが、有償化できれば。	今はボランティアではほぼやらない人が多い。(PTA、町内会など)	
34		スポーツ・文化振興	外国籍の方との交流(国際理解)		
35			新しい文化の創造		
36			音楽は盛んで学校ともつながりはあるが、絵画分野も素晴らしい人が多いので、学校とつながることができないか		
37			格子状防風林などの自然遺産をブランディングできたらいい		
38			郷土館の建て替えは必要。観光資源の活用もできるように。郷土館の完成を目指す。		
39			スポーツ合宿の誘致、一流選手の指導を受ける機会	子どもたちは一流選手に教わることや、一流選手のプレーを見ることがとてもうれしい	
40		思いやりのある町	人権教育を推進し、自殺予防や相談できる人、相談することなどを学んでほしい。		
41			「だれかのために」という考えや思いをみんなが持てるようになってほしい。「共助」の意識を高めた取り組みができるといいな		
42			心がきれいならまちもきれいになる(ゴミがない)		